

第11回軽井沢町総合教育会議 会議録

1. 開催日時：令和8年3月27日（金） 午前10時から11時40分

2. 開催場所：中央公民館 講義室A・B

3. 出席者：軽井沢町長 土屋 三千夫（土屋町長）

軽井沢町教育委員会 教育長	宮本 隆
教育長職務代理者	鈴木 淳子
教育委員	本城 慎之介
教育委員	藍原 尚美

事務局：柳澤 さおり（総合政策課長代理）

岩井 和成（こども教育課長）

市村 和則（生涯学習課長）

金井 章宏（こども教育課長補佐兼学校教育係長）

遠山 裕（児童係長）

小川 恭子（こども教育課長補佐兼子育て支援係長）

金井 拓也（軽井沢高校・教育魅力化推進係長）

土屋 忠夫（生涯学習課長補佐兼文化振興係長）

市村 強志（企画調整係長）

柳原 智子（学校教育係）

議題（2）の説明のための出席者

軽井沢中学校長 山崎 伸一（中学校長）

軽井沢東部小学校長 川崎 圭一（東部小校長）

軽井沢中部小学校長 阿部 純（中部小校長）

軽井沢西部小学校長 久保 貴史（西部小校長）

進 行：岩井 和成（こども教育課長）

4. 議題

- （１）『私たちの学校』づくりについて
- （２）軽井沢町の教育の現状等について
- （３）追分宿津軽屋の活用について
- （４）軽井沢町こども家庭センターの設置について
- （５）その他

5. 傍聴人数 1名

6. 議事内容

1. 開会

【こども教育課長】

定刻となりましたので、第11回軽井沢町総合教育会議を開催いたします。

開催にあたりまして軽井沢町総合教育会議設置要綱第6条の規定により軽井沢総合教育会議は公開となっておりますが、個人の秘密を保つため必要があると認めるときは、同要綱第6条の規定の但し書きにて、一部非公開といたしますので、よろしくお願いいたします。

それではまず初めに、土屋町長よりご挨拶をお願いいたします。

2. 町長あいさつ

【土屋町長】

皆様おはようございます。

年度末で大変お忙しい中ご出席いただきまして本当にありがとうございます。

年度末でご多忙のところお集まりいただきありがとうございます。

先週、町立の小中学校の卒業式が行われ、そして今週25日に、町立保育園の卒園式が行われました。大勢の保護者や来賓も参加していただき、また小中学校の卒業式には私も伺い、これから巣立っていく子どもたちの門出をお祝いしてきました。

また、4月には各保育園の入園式も行われ、各小中学校の入学式は私も出席する予定となっておりますので、希望に満ちあふれた新1年生を迎え入れてきたいと思いません。

さて、この「総合教育会議」は、教育委員会と首長との連携強化を図ることなどを目的に、平成27年4月1日施行「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正」において、すべての地方公共団体に設置するとされております。このことにより、軽井沢町総合教育会議設置要綱に基づき、今年度で第11回目の開催となります。

本日の議題は、「『私たちの学校』づくり」ほか3件の議題にご審議をいただくこととなりますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 議題

【こども教育課長】

ありがとうございました。

それでは、次第に従いまして3の議題に入らせていただきます。

(1) 「『私たちの学校』づくり」について、宮本教育長より説明をお願いいたします。

【宮本教育長】

軽井沢町では、これまでオープンドアスクールの検討を進めてきました。その中で、

1 子ども主体の学校づくり

2 既存校の魅力化

の2本柱を進めてきましたが、それらを総称して『私たちの学校』づくり」と位置づけています。

アンケートでは、「学校にない方がよいルール」、「嫌だったこと」などについて、子どもたちや保護者から多くの声が寄せられました。

特に、「みんなの前で叱られることが嫌だった」という意見は印象的でした。

一方で、子どもたちは「悪いことはきちんと注意してほしい」とも述べており、叱ること自体ではなく、叱り方に課題があることが見えてきました。

また、教育支援センターのワークショップでは、「みんなの前で叱られたことが不登校のきっかけになった」という声もありました。

これらを踏まえ、学校文化や教員の関わり方を見直していく必要があると考えています。

各学校では、

- ・楽しい学校づくり
- ・よりみちカフェ
- ・子ども主体の取り組み

などを実践しています。

さらに、

- ・表現コミュニケーション事業
- ・シェフ給食
- ・教育支援センター整備
- ・校内教育支援センター設置

など、「誰一人学びから漏れない仕組み」を進めています。

【教育委員】

アンケートやワークショップを繰り返し行い、子どもたちや保護者の声を丁寧に聞きながら進めていることに感謝しています。

アンケートの結果について、単なる公表だけでなく、「どのように評価し、学校づくりへ反映したのか」というフィードバックを行う予定はありますか。

また、

- ・意見を聞く
- ・検討する
- ・実践する
- ・フィードバックする

というサイクルを継続的に行うことが重要ではないかと思います。

【宮本教育長】

アンケート結果については、現在、教育委員会としての考え方や対応状況を整理し、返答できるよう準備しています。

今後も、子どもの権利や意見表明を大切にしながら、既存の学校の仕組みの中へどう組み込んでいくかを検討していきます。

(2) 軽井沢町の教育の現状等について

【中学校長】

本校では、

- ・あいさつ
- ・清掃
- ・合唱
- ・自ら学ぶ、友と学ぶ

を重点活動としています。

学校生活 470 分のうち、授業は 300 分を占めています。

つまり、授業が楽しく分かるものであれば、学校生活全体が充実すると考えています。そのため、授業改善を進め、

- ・アウトプット
- ・フィードバック
- ・ICT活用

などに取り組んできました。

また、生徒が軽井沢町について調査・提言を行い、議会で発表する機会も設けました。

さらに、「よりみちカフェ」では、子どもたちが主体的に企画運営を行い、地域保護者とも連携した活動を行っています。

【東部小学校長】

本校では、「自分をつくる、みんなをつくる」をテーマに教育活動を進めています。

重点として、

- ・縦割り活動
- ・異年齢交流
- ・子ども主体の活動

を大切にしています。

運動会では、子どもたちの発表により縦割り班対抗の綱引きを実施しました。

また、音楽会や児童会祭でも、学年を超えた関わりを進めています。

小規模校だからこそできる学校づくりを、子どもたちと一緒に考えていきたいと思えます。

【中部小学校長】

本校では「児童のウェルビーイング」を重点に掲げています。

主な取り組みとして、

- ・教科担任制
- ・チーム担任制
- ・IU CHUBU（アウトプット活動）
- ・多様な学びの支援
- ・校務DX

を進めています。

教科担任制により、教師が教材研究に集中できるようになり、授業改善につながっています。

【西部小学校長】

本校では、「自分で考え、みんなでつくる」を最上位目標としています。

特に「共生」を大切にしており、

- ・自分はここにいてよい
- ・誰かの役に立っている

と感じられる学校づくりを目指しています。

そのため、「クラス会議」を重視し、子どもたちが輪になって意見を出し合う活動を行っています。

来年度は、「相手と始まる学び」をテーマに自己調整型の学習も進めていきます。

【教育委員】

ICTや探求的な学びを進める一方で、

- ・基礎学力
- ・道徳性
- ・規範意識
- ・協働性

などの部分も大切にしてほしいと思います。

【教育委員】

教科担任制とチーム担任制は、授業やウェルビーイング向上につながる重要な取り組みだと感じています。

今後は、4校共通の学校評価なども検討し、町全体でPDCAサイクルを回していくことも必要ではないでしょうか。

【宮本教育長】

学校と地域との連携については、コミュニティスクールの在り方も含めて、さらに強化していく必要があると考えています。

また、教育委員会独自の広報誌なども検討してまいります。

【土屋町長】

子どもたちの意見を町政へ反映していくことは非常に重要だと考えています。

中学生議会で提案された内容については、既に事業化へ向けて動いているものもあります。

また、

- ・ AI 活用
- ・ SNS 利用
- ・ ICT 教育

などについても、今後重要なテーマになると考えています。

AIは急速に社会インフラ化していく可能性があり、子どもたちへの教育についても検討が必要だと感じています。

さらに、「みんなとよく生きる」という視点を大切にしながら、リスペクトと信頼を基盤とした教育を進めていきたいと思っています。

(3) 追分宿津軽屋の活用について

【文化振興係長】

追分宿津軽屋については、歴史的資源としての価値を活かしながら、地域交流や文化発信の拠点として活用を進めていく方向で検討しています。

施設の保存だけでなく、

- ・ 地域住民
- ・ 子どもたち
- ・ 観光客

など、多様な人々が関われる場として活用できるよう検討を進めています。

また、文化財としての価値を維持しつつ、実際に活用される施設となるよう、今後関係者と協議を進めていきます。

【教育委員】

歴史的建造物は「保存するだけ」で終わってしまうケースもありますが、実際に人が集まり、学びや交流が生まれる場所として活用されることが重要だと思います。特に子どもたちが地域文化に触れる機会としても期待しています。

【教育長】

学校教育との連携という視点も非常に重要だと思っています。

地域の歴史や文化を学ぶ「本物の学び」の場として、活用できる可能性があると考えています。

(4) 軽井沢町こども家庭センターの設置について

【こども教育課長】

こども家庭センターについては、

- ・ 妊産婦支援
- ・ 子育て支援

- ・児童福祉

- ・家庭相談

などを一体的に行うため、設置を進めるものです。

従来は複数の窓口に分かれていた支援機能を整理し、相談しやすい体制づくりを目指しています。

また、

- ・関係機関との連携

- ・切れ目のない支援

- ・早期支援

なども重要視しています。

【教育委員】

支援が必要な家庭ほど、どこに相談したらよいか分からないことがあります。

窓口が一元化されることで、保護者にとって相談しやすい環境になることを期待しています。

【教育長】

学校現場でも家庭支援の必要性は年々高まっています。学校だけでは対応が難しいケースも増えているため、関係機関と連携した支援体制の強化は非常に重要だと考えています。

(5) その他

【土屋町長】

本日の議論を通じて、軽井沢町が目指す学校づくりや子ども支援の方向性について、多くの支持をいただきました。

特に、

- ・子ども主体

- ・ ウェルビーイング
- ・ 多様な学び
- ・ 地域との連携
- ・ A I ・ I C T 時代への対応

などは、今後ますます重要になると考えています。

教育委員会、学校、地域が連携しながら、子どもたちにとってより良い教育環境を整えていきたいと思えます。

4. 閉会

【こども教育課長】

以上をもちまして、第 11 回軽井沢町総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。